



光沢を上げた黒色に仕上げた防錆塗装

バイク部品に防錆び塗装

タカラ産業、個人向け参入

トラック部品製造のタカラ産業(富士市、渡辺哲史社長)は一般消費者向け事業に乗り出す。今月下旬をメドにバイク部品の防錆び塗装サービスを開始。耐食性や耐塩性の高い塗装を行い、年間350件の受注を目指す。企業間取引がコスト圧縮など厳しい環境にある。一般消費者を対象とした高付加価値のサービスを事業の柱に育てる。

年350件受注目指す

新サービスの名称は「錆(さ)びないライタース」。ホイールやブレーキレバーなどのバイク部品に、同社がトラック部品製造で導入している「カチオン電着塗装」を施す。

カチオン電着塗装とは、「エポキシ樹脂」と呼ばれる高分子の合成樹脂を使った水溶性塗料が入った槽に塗装する部品を浸し、電流を流しながら塗料を塗りつける手法だ。塗り終えた後にセ氏140度で約20分焼き固めて仕上げる。塗装の過程で、塗料と部品が密着する形になるため耐食性や耐塩性に優れた加工を施せる。仮に塗料部分が傷ついてさび

が発生しても、さびが広がりにくい。ため、処置しやすいのが特徴という。同社が実施した耐久テストによると、720時間以上塩水を噴霧してもさびが発生しなかった。一般的な塗装方法では「72〜120時間程度でさびが確認される」(渡辺社長)という。基本の塗装色は黒色のみだが、ピンクや黄色など好みの色にしたい場合は、カチオン電着塗装で下地塗装した後、別の色を重ね塗る。バイク販売店のほか自社でも注文を受け付ける。メッキ加工などがされていないものなら2日程度で仕上げることができる。料金はホイールで1個5千円程度に設定した。同社は今後、釣り道具や園芸用品といった趣味の道具にもカチオン電着塗装を施すサービスを手がけたいという。タカラ産業の前身である中央製機は1960年設立。2011年12月期の売上高は約7億円だったという。